



5 2023

発行所 大阪市中央区玉造2-24-22 カトリック大阪大司教区 広報委員会 郵便番号 540-0004 TEL (06) 6941-9700(代表) TEL (06) 6946-3223(直通) FAX (06) 6946-3224(直通) E-mail: jibo@osaka.catholic.jp 編集 広報委員会 発行人 前田万葉

本紙「点訳版」「音訳」があります。〈無料〉 ※ご希望の場合は下記まで申込み 「点訳版(点字本)」 時報 ☎06-6946-3223(直通) ☎06-6946-3224(直通) 「音訳(テープ・ディジー)」 山口さん ☎0798-34-4228

- ☆ 動画配信している司祭の紹介
 - ☆ 性虐待被害者のための祈り
 - ☆ ラジオ「信仰の時間」松永敦神父
 - ☆ 司牧者から若者たちへの一冊
 - ☆ 2022年度教区現勢一覽
 - ☆ カトリック小学校入学案内
 - ☆ イエスにならう生き方を求めて
 - ☆ 開きつた神さま出会う時のこと
- 3画 2画 5画 6画 7画
- 広報委員会へのEメールアドレス=jibo@osaka.catholic.jp

『時報』原稿・資料等の締切は毎月月末です。



大阪カテドラル聖マリア大聖堂再献堂60周年記念行事

希望を持ってともに

2023年3月21日(火・祝日)、大阪カテドラル聖マリア大聖堂に、教皇大使レオ・ボツカルディ大司教を招聘し、パイプオルガン演奏会、記念ミサと歓迎セレモニーの3部構成で、再献堂から60年を祝う式典が行われた。新型コロナウイルスへの政府の対応方針が緩和されてから初めての教区行事となり、会衆と司祭あわせて約400人が集まりともに祝った。

大阪カテドラルは1945年の大阪大空襲で焼失したのち、夙川教会を臨時カテドラルとし、1963年に再献堂するに至った。戦後の復興の中で、大阪カテドラルの再献堂は、教区民にとっての悲願でもあり、高度成長に沸く大阪において大きな出来事であった。当時では最大規模の2400本のパイプを要するパイプオルガンや、堂本印象画伯による巨大壁画「栄光の聖母マリア」の設置を行っ



開会のあいさつ

最大の建物建設となった。1963年3月21日に献堂式が行われ、大阪カテドラル聖マリア大聖堂が誕生した。教皇大使による祝別や大阪市長など多くの来賓の参列の中で盛大な献堂式が行われた。それ以降、3月21日は大阪教区司教座聖堂記念日と同時に、教区召命の日として、この日に司祭叙階式などの召命に関する行事が執り行われるようになった。



堀江光一：東京藝術大学、音楽学部器楽科卒業。同大学院音楽研究科修士課程修了後渡英、現在桃山学院大学オルガニスト

会の始めに前田万葉大司教は、「今は、シノドス(ともに歩む教会)が強調されています。この記念の年を機に、「希望を持ってともに」の教会を築きたいものです。これからの大阪大司教区は、この司教座聖堂を「神と教区民の家、祈りの家」として、ますます教区民の霊性と宣教の拠点とし、もつともつここに集まる機会を増やしたいと思



教皇大使説教

第一部は、堀江光一さんによるパイプオルガンの演奏会となった。演奏会では、グノー作曲の「アヴェ・マリア」をはじめ、三木たかし作曲の「心の瞳」など、バリエーション豊かに7曲演奏された。奏でたパイプオルガンの音色で、会衆からは拍手がわき、典礼で慣れ親しむ聖歌とは違う音を楽しんだ。

第二部は、前田万葉大司教司式で記念ミサが捧げられた。大司教は司教座に着座し、祭壇は内陣奥の祭壇が使用され、60年前の献堂式と同様の形で行われた。教皇大使は説教の中で、アンテイオキアの聖イグナチオがスミルナのキリスト教徒に言われた「司教のいるところには共同体がある。キリストのおられるところにカトリック教会があるのと同じように」という箇所を引用し、「司教座は、司教が教会を主宰し、福音を宣べ伝え、信仰の真正を見守り、慈善のあかしを促進し、一致を保つためにあらゆることを行う場所を示す象徴」であると話された。また、小教区と地域教会の他の共同体との交わりを明示するために大聖堂でさまざまな祈りの機会を設けることの重要性も話された。説教の終わりに、「教区内のすべての教会の母であるこの大聖堂が、神の民が生きる共同体としての自分たちを発見し、聖なる秘儀を祝い、

第三部 教皇大使 歓迎セレモニー 子どもたちから大使にむけてイタリア語と日本語で歓迎の言葉が送られ、花束と記念誌が贈呈された。大使は花束を感謝とともに聖母マリアに捧げる粋な演出をされた。その後、大司教は大使への歓迎の言葉の中で、「ボツカルディウエルカム大阪開花かな」と歓迎の句を詠まれた。ヴェリタス城星学園聖歌隊によ

神のことはと司教の教えに耳を傾け、美を通して神を賛美する特権的な場でありますように。この大聖堂が、山の上にある町のように、主を求め、すべての人びとのために光を放ち、安全な港となつていきますように」と祈られた。説教後には、バルトロマイ丹生信雪神学生の朗読奉仕者選任式が行われた。

閉会後も大使は大聖堂に残られて、信徒からの記念撮影などに応じられた後、パイプオルガンを弾かれ、大阪カテドラルでの時間を過ごされていた。教皇大使レオ・ボツカルディ大司教は、コロナ禍の2021年に着任されてから、今回が初めての大阪教区への公式訪問となった。20日に来阪された後は、夙川教会を訪問し信徒の方々に迎えられ、教会の案内を受けた。教会の細部まで丁寧な案内があり、一つひとつの歴史に耳を傾けておられた。大使は、教会の歴史と同時にここでの召命について強く興

味を持たれて熱心に質問をされていた。滞在期間は3日間であったが、大阪教区を知り、「これから教区のために祈る際には皆さまの顔を思い浮かべて祈ります」と話し、帰京された。



Oh Happy day

